

産まれてくる赤ちゃんのために妊婦さんが接種する

“RS ウイルスワクチン”を知っていますか？



RS ウイルス感染症について

RS ウイルス感染症はRS ウイルスに感染することによりおきる呼吸器感染症で、生後1歳までに50%以上、2歳までにほぼ100%が初感染します。症状は軽度の感冒様症状から下気道症状(咳、呼吸困難、喘鳴)まで様々で、特に生後6か月未満で感染すると重症化しやすいといわれています。合併症として無呼吸、急性脳症などがあり、後遺症として喘息の発症との関連も指摘されています。

日本では毎年約12万～14万人の2歳未満の乳幼児が感染し、そのうち約1/4に入院が必要とされています。

RS ウイルス母子免疫ワクチン(アブリスボ)について

妊婦さんに接種することにより、母体のRSウイルスに対する中和抗体価を高め、胎盤を通じて母体から胎児へ中和抗体が移行することで、乳児におけるRSウイルスを原因とする下気道疾患の発症や重症化を予防します。

接種方法：妊娠24週～36週にアブリスボ 1回0.5mlを筋肉内注射します。

※児の発育の観点から、より出生までの期間の短い28週～36週の接種によりさらに有効性が高くなる可能性が指摘されています。

※妊婦さんへの接種により、生後6か月までの有効性が検証されていますが、生後6か月以降の有効性は確立していません。

※接種後14日以内に出生した児については、移行抗体が十分でない可能性があります。

〈補足〉RSウイルス感染症の予防として出生後に乳児に抗体薬を投与する予防法もありますが、現時点では基礎疾患をもっている児や早産ではない赤ちゃんについては、出生後の予防薬は保険診療外となります。

アブリスボの有効性と安全性

有効性：医療機関の受診を必要とするRSウイルス関連下気道感染症に対して生後90日で57.1%、180日で51.3%の減少が認められ、重度のRSウイルス関連下気道感染症に対しては生後90日で81.8%、180日で69.4%の減少が認められました。

安全性：起こる可能性のある副反応としては、接種部位の疼痛や頭痛、発熱などですが、ほとんどが軽度から中等度でこれまであるワクチンと同等程度です。

RSワクチン接種を希望される方、ご相談がある方は外来スタッフまたは担当医にご相談下さい。

完全予約制での接種となります。

接種開始：令和6年12月9日～

接種可能週数：妊娠24週～36週(28～36週を推奨します)

料金：33,000円(税込)

ご不明な点はスタッフにお気軽におたずね下さい。

